

三塾小学校能学習 10周年を迎えて

三塾小学校で能学習が行われているのをご存知でしょうか？毎年、総合学習の一環として6年生の児童が5月から学習を始め、11月の後楽園の能舞台でその成果を発表します。今年で10周年を迎えるこの取り組みを紹介させていただきます。

ふれあいのまち

三塾

社協だより

第31号

平成21年9月20日発行

発行

三塾地区社会福祉協議会

印刷

株式会社三門印刷所

伝統文化に取り組んで

三塾小学校では総合的な学習を「ふれあい三塾！人・自然・文化」と題し、学年の発達段階に応じた課題に取り組んでいます。その中で6年生は、「歴史とわたしたちとのつながり」伝統文化をさぐる」というテーマで「能学習」に取り組んでいます。

プロの能楽師の方を講師としてお迎えすることで、子どもたちは「本物」だけがもつ圧倒的な迫力を体験し、伝統文化を継承していく人間の真摯な生き方を学び取っています。友だちと心を合わせ、力を出し合い支え合つて能舞台に立つという学習過程は、何物にも代え難い体験となっています。「日本の伝統文化は？」と尋ねられた時、三塾小の卒業生は、単に知識としてだけではなく、自分の体験をもとにして「日本には能があります。」と胸を張り世界の人々に紹介できるものと思います。

(三塾小学校 六年担任)

大島衣恵先生にお話をうかがって



プロフィール
福山市在住
喜多流能楽師

全国的にめずらしい取り組みをしている三塾小学校の能学習についてお話をうかがいたいと思います。先生が三塾小学校で指導されるようになったきっかけを教えてください。

平成十二年に当時の校長先生から、総合学習の一環として地域の特性を生



児童へのインタビュー

能学習で難しいところは？

・謡の節(ふし)、かまえやひらききの姿勢と動き

かしたことをやりたい。学区の近くには後楽園があり、その能舞台で子どもたちが能を舞うのはどうかという話をいただきました。

そこで先生が指導を引き受けられたわけですね。そうして始まった能学習ですが、今年で10周年を迎えます。その間、大島先生には変わらぬご指導をいただいています。今更で印象深いことや苦労されたことがございますか？

そうですね、毎年着物やはかまが子どもたちの人数分そろうということですが、これも地域の方々の協力があった

保護者の方より

我が家では、能学習に挑戦するのは長男に続いて二度目です。使い馴れない難しい言葉や所作、初めて経験するはかま姿など私たち大人から見てもなかなか大変です。大島先生に教えていただいたことを精一杯、演じてくれるよう祈っています。そして日本伝統文化の粋、「能」を学んだ事は、彼等が大人になった時、よき思い出、よき財産として残ると思います。

卒業生

三塾小学校卒業生 岡山大学教育学部2年 成田実加さん
私が三塾小学校で能学習を体験したのは8年前のことです。大島先生ご指導のもと、私たちは能という伝統文化のすばらしさを知り、力を合わせて一つの事を成し遂げる喜びや感動と、そして陰で支えてくださる方々へ感謝の気持ちを学びました。今も私が能学習を続けているのは、能の奥深い魅力と、そこから学べるたくさんのことがあるからだと思います。10年という節目を迎え、能学習が三塾小学校の新たな歴史を刻んでいることを、卒業生として大変嬉しく誇りに思い、これからも数多くの感動を生み出すことを願っています。

後楽園の能舞台の発表に向けてどんな気持ちで臨みますか？
・貴重な体験なので、学んだことを出し切り、後悔のないようにしたい。
・みんなで成功させたい。
・三塾小の伝統を引き継いで、伝えたい。

からと聞いています。また、苦労といいますが、最初に指導の話があったとき、八十人からの児童を一度にどのような形にして能舞台で発表するかという不安がありました。二、三年継続していくうちに、子どもたち自身が「今年自分たちの番だ」と意識して取り組めるようになりました。
子どもたちに能の指導をすることに、私自身も成長できたと思いい感謝させています。今後でもできる限りの協力をさせていただきます。
大島先生、本日はお忙しい中、ありがとうございました。

能学習の様子を取材しました

七月十四日(火)三時間目。じつとして汗が吹き出るような暑さの体育館に六年生が集まりました。担任の先生の「やる気で暑さを吹き飛ばしてがんばろう」との言葉に子どもたちの表情も引き締まります。今年「羽衣」を発表します。

大島先生のご指導により、まずは謡の学習です。「しっかりと息を鼻から吸っておなかに力を入れ、声を出すようにしましょう。」メモをとりながらおっしゃる言葉を真剣に聞いています。「風早のー、三保の浦曲を漕ぐ船のー」先生の声と子どもたちの声が重なります。先生のアドバイスで子どもたちの声がぐんと大きくなります。



後半は構えとすりあしの仕方を学習しました。子どもたちのりんとした姿勢は、このような学習による集中力から生まれるのでしよう。大島先

後楽園能舞台で能が舞われるようになった歴史

江戸時代、能は幕府の式楽に定められ、武士は教養として茶の湯や蹴鞠、能などの稽古に励んだ。

ことに池田綱政の代は、江戸屋敷や岡山城内で慶事を理由にひんばんに能が行われた。そこで綱政は、岡山城や後楽園に能舞台を作り、綱政自身も能を舞うようになった。後楽園の能舞台は、1707年に完成し、家臣の妻子や農民・町人にも拝見を許可された。藩主として領民たちとも文化的な楽しみを分かち合いたいという思いがあったものと思われる。

生から「何事もすぐには上手にできません。繰り返し何度も練習することで必ず出来るようになります。」とお話がありました。
六年生の皆さん、十一月の能舞台での発表に向け、頑張ってください。
三塾小学校の後楽園能舞台での発表が、平成二十二年秋に岡山県で開催される国民文化祭「あつ晴れ！おやかやま国文祭」の応援事業に選ばれました。十周年を迎え、能学習への取り組みの継続を願い、これからも地域をあげて応援してゆきたいと思